

2016（平成 28）年 5 月 2 日

保護者の皆様へ

奈良女子大学附属中等教育学校
学校長 渡邊 利雄

学校からのお知らせ

陽春の候 皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、4 月 9 日には 121 名の新入生を迎え、新たな学校生活がスタートしました。それぞれの学年で HR 担任や教科担任も替わり、面談等を実施しているところです。

少し遅くなりましたが、年度初めに当たり、今年度の計画についてご連絡致します。

1 生徒指導について

本校は創立以来、「自由・自主・自立」の精神を大切にされた教育を行ってきました。この精神をシティズンシップ育成の視点から追求しつつ、生徒の自立を支援するさまざまな取組を実践していきます。特に、この度改訂した「いじめ防止対策基本方針」（別紙）に基づき、安全で安心して通学できる学校にする決意を新たにしましたところ。学校全体で以下の取組を行います。

- (1) 「学校生活のためのハンドブック」を利用して、集団生活のルールを確認し、学校全体で生徒指導に取り組みます。特に、スマホ（ケータイ）の利用についてはご家庭でも十分に話し合っていたいただきたいと思います。
- (2) 新入生に対しては、「安全ハンドブック」を利用して、通学時の登下校経路を確認します。
- (3) 全教員が生徒との対話時間の確保に努め、4 月と 10・11 月に「面談期間」を設けて、担任による生徒状況把握を丁寧に行います。

2 教科カリキュラムの変更について

現在、文部科学省は学習指導要領の改訂作業を行っています。2020（平成 32）年より小学校新学習指導要領が全面実施され、2021（平成 33）年より中学校新学習指導要領が全面実施されます。高等学校は 2022（平成 34）年より年次進行で実施される予定です。また、大学教育改革と高等学校教育改革も同時に進んでいきます。「高等学校基礎学力テスト」が 2019（平成 31）年から試行期間となります。「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の例示が出され、具体的な動きが公表される段階にあります。さらに、文部科学省および文部科学大臣より、「次世代の学校・地域」創生プランが公表されました。この中で、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」の 3 つの柱が明示されています。

本校としては、これらの動向を熟視しつつ、学校改革に取り組んでいきます。その一つが教科カリキュラムの変更です。それに伴い 2017（平成 29）年度より全学年の時間割の枠組みを以下のように変更します。

45 分授業（原則 7 コマ）を、65 分授業（原則 5 コマ）とします。

変更の理由は以下の2点に集約されます。

- (1) 課題解決型・探究活動を重視した次世代の教育内容・方法への対応のため
- (2) 大学教育の改革に伴う大学入試改革に対応するため

今後、時間割の枠組み変更に伴い、教科カリキュラムの変更を行います。具体的には7月をメドに作業を進めていきます。さらに、学校行事を含めて2学期制についても検討を進めていきます。この変更を支えるべく学校組織についても見直しを図っていく予定です。

3 研究開発学校として

(1) 第Ⅲ期 SSH の取組



本校は、2005（平成17）年度から2014（平成26）年度まで2期10年間のSSH研究指定を受けて取り組んできました。昨年度より新たに第Ⅲ期SSH5年間の指定を受けました。第Ⅲ期SSHは、奈良女子大学理系女性教育開発共同機構との共同研究が大きな特長と言えます。本校理数の教員と大学共同機構の教員が理数研究会を定期的に行き、新たな理数教育の開発に取り組んでいます。その成果は、左のブックレットで公開されています。

さらに、この度、「さくらサイエンスプラン」（JST）に採択され、アジア諸国の青少年を奈良に招き、科学技術分野での海外交流事業を実施していきます。具体的な計画は後日お知らせいたします。

(2) ユネスコスクールとして

本校は、2006年にユネスコスクールに加盟し、2010年より東アジアを中心とした枠組みの「YES for ESD (Youth and Educators' Summit for Education for Sustainable Development)」という高校生のフォーラムに参加してきました。

今年度から、高校生国際会議「Student Forum」に参加することになりました。今年、7/28（金）～8/4（水）の8日間、インドネシアで開催されます。高校生国際会議「Student Forum」は、本校および開催校が主催者となります。

4 高大連携特別選抜と進路状況

(1) 奈良女子大学との連携

奈良女子大学と本校は、2008（平成20）年度より「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成を目指す高大連携特別教育プログラム」を実施してきました。さらに2009（平成21）年度より、同プログラムを履修した附属中等教育学校生（女子）を対象とする「高大連携特別教育プログラムに基づく特別選抜」を実施し、現在は文学部2名、理学部2名、生活環境学部3名の計7名を上限として、奈良女子大学に進学できるシステムができています。昨年度の6年生は、3名がこのプログラムにより奈良女子大学に進学しました。

(2) 2016年春卒業生の進路状況

今春の進路結果についてお知らせします。

2016年春卒業生の進路一覧表

| 国公立 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|----|----|-----|------|----|---|
| | 一般 | | | | | | | | AO | | | 推薦 | | | | 合計 | |
| | 国 | | | 公 | | | | | 計 | 国 | 公 | 計 | 公募 | | 高大連携 | | 計 |
| | 前期 | 後期 | 小計 | 前期 | 中期 | 後期 | 小計 | 国 | | | | | 公 | 奈良女 | | | |
| | 男 | 14 | 3 | 17 | | 2 | 1 | 3 | 20 | 1 | | 1 | | | | | 0 |
| 女 | 10 | 5 | 15 | 1 | | | 1 | 16 | | | 0 | | | 3 | 3 | 19 | |
| 計 | 24 | 8 | 32 | 1 | 2 | 1 | 4 | 36 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 3 | 40 | |

| 私立 | | | | | | | | | | 文部科学省管轄外 | | 大学 進学 合計 | 短大 | 専門 学校 | 進学 合計 | 就職 | 家庭 学習 | 総計 |
|----|----|---------|---------|----|----------|---|----|----|----|----------|---|----------------|----|----------|----------|----|----------|-----|
| 一般 | AO | 推薦 | | | | | 合計 | 推薦 | 合計 | | | | | | | | | |
| | | 指定 校 | 協定 校 | 公募 | 自己 推薦 | 計 | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 8 | 1 | 4 | | | | 4 | 13 | | 0 | 男 | 34 | | 1 | 35 | | 25 | 60 |
| 女 | 12 | 1 | 12 | | | | 12 | 25 | | 0 | 女 | 44 | | | 44 | | 17 | 61 |
| 計 | 20 | 2 | 16 | 0 | 0 | 0 | 16 | 38 | 0 | 0 | 計 | 78 | 0 | 1 | 79 | 0 | 42 | 121 |

今春の入試結果の詳細は、後日、本校ホームページに掲載します。今春の特徴としては、現役で京都大学に5名、大阪大学に8名、神戸大学に4名、同志社大学34名、立命館大学27名、関西大学7名、関西学院大学24名が合格したことです。また、久しぶりに家庭学習が42名と多くなっていることが挙げられます。今春の進路状況を分析して言えるのは、“行ける大学”ではなく“行きたい大学”を優先し、初志貫徹の意志どおりに受験したということです。近年の入試結果から、周りの情報に左右されず、しっかりと腰を据えて本校の学習に取り組んだ者が最終的には自己の進路を実現しているということが言えます。

(詳細は、6月に3年生以上に配布予定の「フォルトナ(進路のしおり)」をご参照下さい。)

5 生協支援について

本校生協食堂は、2002年に総合教育棟が完成した時に、生徒・保護者の要望によって開業しました。開業後10年以上が経過し、設備の更新等が必要となっています。

今年度のPTA・教育後援会総会の折に、生協の加藤専務から生協発祥(イギリス発祥)のことから日本の大学での歴史(同志社大学生協が日本初)を含めてわかりやすく説明していただきました。奈良女子大学生協の経営努力や附属中等教育学校店の工夫などもお話しされましたが、生協食堂は栄養バランスを考えながら子どもたちの成長を支える努力をされています。

今後も、生協委員会や生協理事会において経営の効率化を図り、営業収支改善の経営努力を続けていきますので、生協食堂を存続させるためにさらなるご支援ご協力をお願い致します。

具体的な生協支援策として、以下のことを実施していきたいと考えています。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

- (1) 各学年での生協利用：年間2回
- (2) 各学年PTAでの生協利用：年間1回以上

- (3) 書籍類（副教材や基礎英語テキストなど）の注文
- (4) 体操用品の注文
- (5) オリジナル T シャツ・グッズの注文
- (6) 同窓会での生協利用の推進

6 学校設備の改修について

昨年度、学校の耐震改修が国の予算で実施できました。また、第 2 体育館の照明が大学の予算で LED 化されました。

今年度は、以下のことに取り組んでいきます。

- (1) テニスコートを手洗いコートからオムニコート（砂入り人工芝コート）へ改修
- (2) 教室の黒板をホワイトボードにするとともに HR 教室へのプロジェクタの常設工事
- (3) 危険箇所の改修（第 1 体育館フロアの一部改修など）
- (4) 樹木の剪定（中庭メタセコイアの剪定など）

7 学警連絡制度について

この制度は、子どもたちが警察に補導や逮捕等された場合、警察から学校にその内容を連絡するというもので、奈良県内の国公立の小・中・高等学校、中等教育学校、障害児教育諸学校に在籍する児童生徒が対象となっています。

保護者と学校と警察が協力して、子どもたちをすこやかにはぐくんでいこうという目的で、奈良県教育委員会と奈良県警察との間で定められたもので、制度の内容は下記のとおりです。

本校でも、生徒の健全育成というこの制度の趣旨に基づき、警察から連絡を受けた場合には、本人によく事情を確認の上、他の問題行動と同様に取り扱い、指導・支援していきたいと考えています。制度の趣旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願い致します。

(1) 目的

生徒の健全育成

(2) 連絡対象となる内容

逮捕・補導された生徒の氏名、日時、問題行動の内容が、警察から学校に連絡されます。

(3) 学校の対応

警察から連絡を受けた際には、連絡対象となった生徒からよく事情を聞き、保護者にも連絡の上、生徒に指導を行います。

8 今後の予定について

5/23（月）～5/27（金）5 年生 I 期中間考査

5/30（月）～6/3（金）1～4、6 年生 I 期中間考査、5 年生修学旅行（沖縄）

6/8（水）前期課程球技大会

6/10（金）後期課程球技大会

6/13（月）～6/24（金）教育実習

7/9（土）オープンスクール

7/15（金）全校集会、HR

7/15～7/20（水）保護者面談